

(様式第1号)

平成27年度 第3回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日 時	平成27年10月8日(木) 15:00~17:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	議長 安東 由則 副議長 海士 美雪 委員 野村 克彦 委員 村上 健 委員 中俣 久美 委員 辻井 秀彦
欠席者	委員 西田 俊一 委員 谷川 久吉
事務局	社会教育部長 中村 尚代 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課管理係長 長谷川 真弓 生涯学習課管理係 宇田 明日香
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

ア 平成27年度近畿地区社会教育研究大会【奈良大会】について(報告)

イ 教育委員との意見交換を終えて

ウ 社会教育関係団体の一斉更新の登録について(報告)

エ 社会教育関係団体の活性化の方策について

～今後の取り組みに向けて～

オ その他

(3) 閉会

2 提出資料

(1) レジメ

(2) 社会教育関係団体(活動場所ごとの団体数)資料1

(3) 社会教育関係団体(活動種類ごとの団体数)資料2

(4) 社教連会報 77号

(5) 社教情報 73号

(6) 平成27年度阪神南地区社会教育委員協議会研修会・懇親会の開催について(ご案内)

3 審議内容

<安東議長>

それでは、議題アの平成27年度近畿地区社会教育研究大会奈良大会の報告について、事務局からお願いいたします。

<事務局：長谷川>

平成27年9月4日金曜日に、なら100年会館大ホールを全体会場としまして開催されました、近畿地区教育研究大会奈良大会に、安東議長、海士副議長、事務局から宇田さんと長谷川が参加いたしました。全体会では春日大社宮司・奈良県教育委員の花山院 弘匡氏を講師に「いにしえより受け継ぐ日本の心」と題した記念講演が行われました。午後からは5つの分科会に分かれ討議が行われました。

<安東議長>

ありがとうございました。続きまして出席された委員から研究大会について一言ずつ感想等をいただきたいと思います。

<海士副議長>

全体会については先ほど長谷川さんがおっしゃっていましたが、分科会の方がちょっと意外だったのは、その内容が居場所づくりだったんですね。眠っている空き家の再生を大学生と一緒に取り組んで、大学生のシェアハウスになったりカフェになったり、手作りで大学生と一緒に進めていくというお話でした。それがまちの活性化になり、まちおこしになるという話だったのですが、今申しましたように、実際に動いているのが大学生達で、若者が入ることによって、町の年長者の方も喜んで一緒に頑張ろうかと、みんなが盛り上がっているということでしたので、私の社会教育委員の役割の概念からは広がっていて、これも社会教育委員の役割の一つなのかと改めて思いました。今までは狭く考えていたのでそれが意外でした。私が普段はNPO法人の活動をやっているのですが、その活動にも通じる話でしたので、社会教育委員の活動ってずいぶん広いのだなと感じました。以上です。

<安東議長>

私は社会教育の役割という分科会にいったのですが、いつも出てくるような話題ではありませんが、そこで紹介されている事例と言うのは、地域に残っている旧家を利用してさまざまなイベントなど地域の活動などを展開しているという事例でした。そうした活動に取り組まれた方がその後社会教育委員になり、こういうことをしていますという紹介でした。

個人でいろいろなことをされている社会教育委員の方はおられるのですが、では社会教育委員の会全体として何をしているのかというわけではないのですね。その方は個人でやっているわけで、社会教育委員だからやっているというわけではない。ですから社会教育委員、社会教育委員の会として何ができるのかと言うと、なかなかこれと言うのは把握しにくい。いつもながら何をやればいいのかと考える会にはなりました。

では、事務局からも一言ずつ感想をお願いします。

<事務局：長谷川>

私も社会教育委員とは何かということで勉強をさせていただいている中で、基調講演をして下さった花山院先生のご意見をお聞きできて良かったと思います。

<事務局：宇田>

私は、なら100年会館の大ホールがとても印象的で、木製の椅子だったのですが座ってもとても落ち着く時間でした。私と海士委員は分科会もその会場で受けていたのですが、分科会で発表されている内容をお聞きしていたら、皆さんとてもまちを愛していらっしゃるなど感じ取れる内容だったんですね。芦屋市にお住まいの皆さんも自分のまちがとても好きだとは思いますが、みんなで何かをすることになった時に、ここまで自分たちの所属を越えて何かをやっていけているのかなと、私はちょっと分からなかったんです。社会教育ということを社会教育委員の皆さんが今ここで話し合っているうちに、そういったことも盛り込んでいけたら良いなと感じました。以上です。

<安東議長>

ありがとうございました。何かご質問はございますか。

— 意見なし —

それでは、教育委員との意見交換会を終えて、事務局から説明をお願いします。

<事務局：長谷川>

社会教育委員の会議が年4回開催される中で、毎年1回は教育委員の方と意見交換会を行っておりますが、事務局としては次年度以降も意見交換会を続けていきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。ご意見をいただければ、と思います。

<安東議長>

野村委員と海士委員と私は何回目かの意見交換会ですが、他の委員は今年初めてだと思

いますが、ご意見はございますか。

<村上委員>

私は今回が初めてで、13時から17時は長いなと思います。しかし、今日初めて出て、子どものことを皆さんいろいろと考えていて、それと同時に思ったのは、我々が子どものことをいろいろ考えても、一つは家庭のこともあると思うのですね。家庭の教育で子どもは変わってくるし、あと学校の先生がどういった教育をしていくか。それもありますので年1回くらいでしたら、いろいろ意見交換をして、我々コミスクとしてもそれを活かしていろいろと考えていきたいなと思います。以上です。

<辻井委員>

学校教育と社会教育というのは、一体のものということ再認識しました。今日は子どもの居場所づくりというテーマでしたが、いろいろな意見が聞けまして非常に参考になりました。

<中俣委員>

私も同じ意見で、たくさんの方の意見を聞いてとても勉強になって、改めてPTAとして何をやるべきか、親の成長はとても大事だなと思いつつ、社会の子育て支援をたくさんしていただいて、延長保育であったり、就業率も上がっていて、スリム化しないときついなと思いつつも大事なところは削ってはいけないのだなと思いました。その大変なことをやる中で親も成長していきますし、学んで子育てに還元できる場所もたくさんあるのかなと勉強になりました。ありがとうございました。

<安東議長>

他にご意見はございませんか。

<野村委員>

概論的な話ですが、芦屋の中でエリアに絞って、具体的に言いますと例えば高浜町だとか高層マンションがありますよね。周辺に小学校などに行っている人がいるので話を聞くのですが、日本人ではない方が非常に多いので、教育していく上でも家庭での共通の認識や教育に対する認識が違うので非常に難しいと。親には所得の問題がありますから、子どもには教育の問題だとかエリアによって芦屋市が持っている特性があるのではないかと、その辺りをもう少しつっこんで、子どものことだけでなく社会教育も含めて何か話ができる機会がないだろうかと思います。僕が聞いたことだけで今決めつけて言っていますが、そうではないかもしれませんが、そういう問題というのもある気がします。

<事務局：中村>

実際にあるとは聞いています。ボランティアさんが日本語支援の教室もされています。子どもにこういうものを用意してくださいというお手紙を持たしても、内容が分からないので用意できない。すると、子どもも持ってきていないから授業から少しはずれてしまう。言葉が分からない上に、さらに悪循環になってしまったりするので、浜風小学校も潮見小学校も同じような悩みを抱えていますから、親に対する日本語の支援ということで曜日を決めて教室を開いていると、数年前になります。が学校現場のほうでも聞いたことがあります。

<村上委員>

潮見コミスクでは「こくさいひろば」というのが、日本語の教室を開いています。けれど、私が思うのは、大学生やいろいろなボランティアの方が来て日本語指導をされていますが、ほんとうに日本語を覚えているのかという気持ちもあります。外国の方を見かけるとやはり外国語で話をされている。日本にいる限りは日本語で話す努力をしないといけないと思います。「こくさいひろば」として10年くらいになるのか、コミスクを飛び越えて発足しましたから、ということは教育委員会が認めたのだと思います。10年もしていたら日本語を上手く話せる人が何人いるか、子どもがそれを把握できているかということをしてほしいのですが、今の実態では本当にできているか分かりません。

<野村委員>

もう一つ自治会がないというのは。

<村上委員>

それは若葉の5です。5だけは作っていない。

<野村委員>

自治会に溶け込む機会がないというのは、もちろん対策はお考えになっていると思います。

<村上委員>

若葉の5というのは公団です。他は全部、自治会はできています。なぜ若葉の5が自治会を作っていないのかは分かりませんが、確かに自治会を作ると管理が大変です。県とか公社の場合、自治会費は安いですが、分譲でしたら震災後で修理費が大きいので、会費だけでもけっこう払っています。お金の管理を他の団体に任せると不安がありますから、我々自治会の役員が1年ごとに交代で行っています。

<野村委員>

そういうエリアの問題，特性の問題があるわけです。それに対していろいろな意見があるのかなと思います。

<海士副議長>

私は今日，資料を拝見していて，まず市のほうから，今，野村委員がおっしゃったようなことにも関係していますが，芦屋市内の子育てに関する課題だとか，行政でもまだ施策が及んでいないことだとか，そういったお話を先にいただけるのかなと思っていました。それによって今こういった課題があって，エリア的にもこういう問題があるのだなと分かった上で話をしたら，もう少しピントが絞れたかなと思います。先にお話しがあってからかなと思っていたので，いきなり意見をと言われても，何に対してどうすれば良いのか分からない部分が，実はありました。皆さんの意見を聞いたり，交換し合うのはとても良いとは思いますが，やはりぎっくばらん意見交換という雰囲気を持っていくのは難しいと思いますので，先にそういった提言があれば，それに対してみんなが意見交換をし合えるのかなと思いました。

<安東議長>

積み上げていくものがあるのかなのかというところですね。これというテーマをいただきたいですね。これというテーマがあって話し合っ，その結果を積み上げていくということができれば良いのですが，その場で決めて，意見を出すというのはなかなか難しいです。先ほどのマイノリティのお話もそうですが「テーマがあって検討をしておいてください。」と言われれば，この1年間で検討して，私たちの提言として出して，教育委員の方の意見を聞くということではできると思います。そうすると積み上がっていくと言いますか，残っていくと思いますが，それがないままですと，来年は何をしようかとなってくるともったいないような気がします。より建設的なことをするためには積み上げていける，そういったものを提供してもらって，あるいはこちらが提供して，そのテーマで話し合っていく，土台を作っていくということができれば実りのあるものになるのかなと，そういうふうに考えます。

意見としては教育委員の方にも伝えていただいて，基本的には来年度も続けていくということが良いかと思います。

<事務局：長谷川>

今回は調整の時間が取れず，ご意見に沿うような話し合いにならず，申し訳ございませんでした。子どもの居場所づくりというテーマだけでは難しかったかもしれませんが，持って行き方ですね。今後，事務局としてきちんと考えていきたいと思ひます。

<安東議長>

そういうテーマでも、先ほど申し上げた通り、前にもらっておいて1回でも話す機会があれば、まとまった意見が出せるかと思いますが、ぱっと聞いてぱっと言うのはなかなか難しいのかなと思います。

<事務局：長谷川>

委員の方が代わられても、テーマは積み上げていくという考え方でしょうか。

<安東議長>

その方が良いと思います。継続になった時はやり方ですね。

<事務局：中村>

今回、教育委員の方から出ていたもう一つの案は子どもの読書、読書の推進というテーマはどうかと出ていました。「子ども読書のまちづくり推進事業」というのを平成20年から3年間の取り組みで行っていましたが、そこを機運にして本のまち芦屋という形で「かばんの中に一冊の本を」と、推進月間になると歩道橋に横断幕を張って、阪神電車のホームから見るととても目立っています。芦屋全体で読書を推進しようと、ブックワーム芦屋っ子といったいろいろなキーワードを作って推進をしていますので、子どもから始まっていますが大人もみんな本を読もうということで行っていますから、今回のテーマとして読書の推進と子どもの居場所づくりはどうかという意見が出ていましたので、そういった観点からも読書だけでなく何か共通するようなことをすぐさま何かありますかということとはなかなか考え付かないので、年間を通していろいろな意見を出していきながら、テーマを絞っていきたいと思います。

<安東議長>

続きまして、議題4の社会教育関係団体の一斉更新について事務局から説明をお願いいたします。

<事務局：長谷川>

第2回の社会教育委員の会議におきまして、6月に申請のあった社会教育関係団体の一斉更新についてご意見をいただきました。いただいたご意見に基づき、申請された320団体の中で再度確認が必要と思われる団体に、会則や会員名簿の再提出をしてもらい、ヒヤリングも行ったところ、活動場所や会員住所で登録の要件に満たない団体があり、3団体を取り下げをされました。また、教育委員会の議案として提出させていただいたところ、取り下げをされた3団体を除いた317団体が社会教育関係団体として承認されました。以上です。

<安東議長>

ただいまの報告からご意見等はございますか。

— 意見なし —

取り下げ理由をご説明していただけますでしょうか。

<事務局：長谷川>

取り下げでございますけれども、1団体は活動場所がコミスクだったということです。あとの2団体につきましては、会員名簿の再提出をお願いいたしましたら、6割以上の市民の方がいらっしゃらなかったため、要件に該当しないということで取り下げをされました。

<安東議長>

他はどうでしょうか。よろしいですか。

では、続いて議題のエの社会教育関係団体の活性化の方策について事務局から説明をお願いします。

<事務局：長谷川>

9月24日に今日の会議に向けて、議長と副議長と事前に打合せを行いまして、前年度作成しました、社会教育関係団体一覧のマッピング（ホワイトボードに掲示）を最新の情報に更新するのかわからないのか。するとしたら、12月の17日木曜日から18日金曜日にワークショップを開きたいと思っております。また年1回、社会教育関係団体の研修交流会を行っております。研修予定は来年2月頃ですが、研修交流会のテーマや進め方についてご意見をいただければと思います。参考までに資料1と資料2を添付しております。資料1が活動場所ごとの団体数、資料2が活動種類ごとの団体数となっております。昨年度の研修会でのアンケートでは他の団体と交流する時間がもう少し欲しかったということで、活動場所に分かれての交流などいろいろな案があるかと思いますが、ご意見、テーマ等いただければと思っております。

<安東議長>

まずこちらの昨年度作成しましたマップですが、いくつかあったのでしょうか。

<事務局：長谷川>

体育館と市民センターと市民活動センターの3か所に貼っております。昨年の9月1日から情報が更新されておられません。その後、新規で認められている団体もございますの

で、更新をするのか掲示を止めるのかご意見をいただけたらと思います。

<安東議長>

活動内容ごとに色別でどういった場所で各団体が活動をしているのか、こういった活動をここですべてしていますよということで、これを見て交流ができればいいなと思って委員が作ってみたのですが、これは古いので一旦外さなければいけないとは思っています。では、これに代わるものを我々で作ってみるのか、作ってみるとすると同じようなやり方で作るのか、或いは違うやり方で作った方がいいと思われるのか、そこら辺のご意見をいただきたいと思います。

初めて見られた方はどうでしょうか。中俣委員，印象などどうでしょうか。

<中俣委員>

貼ってあるのはマップと団体数だけですか。

<海士副議長>

それと、横にかけてある社会教育関係団体一覧のファイルです。

<中俣委員>

まず施設に行かなければこの情報が得られないというのが。他で情報は手に入りましたか。

<事務局：宇田>

ホームページで掲載はしていますが、そちらのピンク色のファイルにある一覧しか載せられていません。なので、市内全域で団体がどれだけ活動しているのかということを目で分かるようなものを作ってみたらどうかというのが、昨年の社会教育委員の方から出たご意見でしたので、マッピングという形で市内全域に種別ごとにシールを貼ってみたものがそちらに掲示している地図です。

<中俣委員>

私たちの世代であればパソコンができる人は良いのですが、ご年配の方の中にはパソコンをされている方と、パソコンをやっていない、持っていないという方がいらっしやると思います。この場所に行かないと見られないというのは、結局どうすれば良いのかなと疑問に思います。こんなものが貼ってあったのかという方も多いと思うので、何か市民全体に周知できるような方法があれば良いなと思いました。広報あしやには載ったりしませんか？

<事務局：長谷川>

広報紙では毎月1日号に、希望する団体が催しの告知を掲載されることがありますが、こういった全体の地図というのは載らないです。

<中俣委員>

一覧表といった文字ばかりのものよりは、せっかく作ったマップで、例えば市民センターや体育館から離れた所にお住いの高齢の方が自分の地域にこういう団体があるのだなど分かればいいなと思ったのと、こういう一目で分かるものが例えば学校で配布されたり、幼稚園から配布されたりすれば、良いなと思いました。

<海士副議長>

もう一つ意味があって、活動を探している人にも見ていただければ良いのですが、活動をしている人たちに対して、グループ間の交流やつながりが分からないというお話だったので、例えばスポーツの団体は体育館が圧倒的に多いのですが、こんなにたくさんの団体がここで活動しているといったことも分かっていたらいいなと思いました。活動をしている人に対しての何か働きかけ、できれば同じ場所で活動をしている人たちが何らかの方法で交流をしてくれる機会があれば良いのにな、ということもその次に期待していましたが、おっしゃられるように初めての方はどこに行ったらいいのかということは分かりにくいかと思います。そういう時は生涯学習課に電話をしてきて、例えば卓球をしたいのだけれど、といった相談があるわけですね。

<事務局：長谷川>

はい。

<安東議長>

辻井議員はどうでしょうか。

<辻井議員>

マップがあればどこでやっているのかが一目で分かりますので、とても良いと思います。できればこのマップとセットでどんなことをやっているのかがわかる一言、例えばキャッチコピーが良いと思いますので、そういったものを付け加えてほしいです。こんな場所でこんなことをやっているのだなと市民に分かりやすくして、それを上手く配布できればちょっとした取っ掛かりになります。そこで興味のある方は電話で聞くなり、WEBを見るなり調べれば良いわけですから、最初に見つけていただくためにも、マップの横にそういうものが追加されれば、より良くなると思いました。

<安東議長>

300団体以上もあるので難しいかもしれません。

<辻井委員>

載せられないですかね。ちょっとしたジャンルや項目でも良いのですが、それで興味を持った方が詳しく見てみようとなり、認知度があがると思います。

<事務局：長谷川>

掲示板に限りがございますので、今掲示している大きさが精一杯かと思います。その中でできる工夫がありますでしょうか。

<野村委員>

表現はおっしゃる通り方法があるかと思います。具体的に3つでも4つでもイラストを入れてあると足が止まるから、文字ばかりだと通り過ぎて行ってしまうので、工夫はあるかと思います。

<中俣委員>

芦屋にウォーキングマップってありますよね。あれは自治会さんがポストに入れてくださっているのか、毎年ポストに新しいのが配られているのですが。

<事務局：中村>

おそらくシルバー人材センターの方に委託して配布しているのだと思います。

<中俣委員>

ウォーキングマップは芦屋全域の地図が載っていて、イラストも入って分かりやすく、ウォーキングコースの紹介なども書かれていたり、そういうものの社会教育関係団体版があったら良いなと思います。

<海士副議長>

作った方はみんなが見てくれるだろうと思って作ったけれど、なかなかそうはいかないですね。

<中俣委員>

現地に行かないと見られないというのは、施設に行かない方は貼ってあることを知らないければ、結局市民センターの前を素通りされてしまうので。

<安東議長>

団体数が多いのでそれをしようとするとかなり大変ですね。例えばスポーツとその他に分けるといった案もありますが。

<中俣委員>

裏面に簡単な一覧を載せるとか。

<事務局：宇田>

社会教育委員さんの中で作っていただける範囲というのもあると思います。何回も皆さんが集まるというのはおそらく難しいと思います。このマッピングもどういう風にやっていくのかということと、実際のシールを貼る作業で社会教育委員の会議の他にも、自主的な参加ですが3回くらい来ていただいた中で作りました。社会教育関係団体は年2回程更新がありまして、年の途中で活動を中止する団体もあります。ですから何月何日現在という地図を作ることはできますが、更新の頻度をどのようにしていくかといった課題もある状態です。一応、ピンクのファイルに生涯学習課の連絡先を載せていたのですが、私が受けた印象では、その地図を見ての問い合わせはなかったかなというのがこの1年の印象です。地図を更新した方が良いのではないですか、というお問合せはあったのです。古い情報を書き換えていくということも問題があるかと思いますが、その辺も含んでどうしていくのかということを決めていきたいです。

<安東議長>

前に話し合ったのは、古いものはもう外さなければいけないだろうということで、これを更新して新たなバージョンでやるのか、労が多くて期待がなしというのであれば様子を見てみようかということもあるかと思います。これは私たちがボランティアでやっていることですから、意見次第なのですが、どうでしょう。これでもう少し詰めていくのか、違った形で他のことをやったほうが良いと思われるのかご意見をいただきたいのですが。

<野村委員>

もう一つ課題なのは、社会教育関係団体に入っている方たちに自分たちが入っている社会教育関係団体とはこういった意味のある団体なのだと認識してもらおうという意義がありましたよね。芦屋川カレッジもそうですが、役員会の中でもなかなか知られていないのです。事ある毎に僕も言いますが、なかなか浸透しない。マッピングに意味はあるかと思いますが、確かに告知されないと、このままではもったいないですね。

<辻井委員>

浸透の仕方を次はやってみて、それで効果を確認して考えるべきでしょうが、ちょっと

もったいないような気がします。

<村上委員>

何人見ているかだな。

<事務局：宇田>

正直、施設側にもずっと貼ってもらえるのかというと、これだけのスペースを確保するのはちょっと苦しいかもしれないです。

<中俣委員>

情報をもらう側としては、紙媒体でポスティングしてもらう方が見ますね。もちろん、パソコンで情報がほしいと言う方もいらっしゃるのですが、ご年配の方を考えると紙媒体が一番周知できるのかなと思います。市民センターに行った時点で、例えば私もそうですが本を借りに行ったり講演会に参加したり、何か目的があって行くので、ロビーの方はけっこう素通りするんですね。余程時間がない限り、チラシを見たり壁周りに目が向かないというか。情報を周知するという上では手元にある方が一番良いかなと思います。作戦ですよ。

<安東議長>

それと、そうしたことのできる予算があるのかという問題がありますね。

<事務局：長谷川>

今年度はご用意がございません。

<村上委員>

紙ベースで配ったとして、我々の経験でコミスク活動というのは毎年配っているんです。団地全部に配っているから何千枚と刷っています。ボランティアでやっていますが、実際に問合せなどはほとんどないですね。ぱっと見て、ああこれかとほとんど捨てられていると思います。本当にやりたい方は問合せをしてくるかと思いますが、これを紙ベースで刷ったとして、何人が見て興味を持つかですね。だったらそれだけの予算は取らないほうが良いと思います。

<中俣委員>

例えば、芦屋市コミスク合同文化展ってありますよね。コミスクの団体が集まって、こんな活動をしていますよという。ああいうことをしても、やはりそれに繋がらないですか。

<村上委員>

文化展で何人来ているのかな。今年も市民センターでやります。出している所は相当出していますが、潮見コミスクは出すものがないのでチラシを貼っているだけです。

<中俣委員>

では、そういうイベントや体験型をやってもちょっと難しいということですね。体育協会は各団体でやっていたらしゃるのでしょうか。

<事務局：長谷川>

はい、そうです。

<中俣委員>

全体のそういう活動って厳しいでしょうか。

<村上委員>

300団体、ホームページで見てもさっと通すから、興味がなかったら分からないですね。

<海士副議長>

ホームページは分野ごとですか。

<事務局：宇田>

はい。

<海士副議長>

確かに、市民全体が望んでいるかといったら望んでいないですね。ニーズというものが難しいし、マップを刷ったとしてもそれほど興味がない、社会教育関係登録団体って何なの？という人がほとんどだと思うのですが、私たちはむしろ、どこにどんな活動があるのか社会教育委員として知りたいという気持ちがあったので、自分たちのワークショップとしてやったという経緯があります。シール部分には団体の番号も付けてありますが、それを小さくコピーしているので、実際はもっと大きかったですよね。

<事務局：宇田>

実際はA1サイズで作っているのですが、それ程大きな地図を貼ってもらえるスペースがなく、縮小させていただきました。

<海士副議長>

自分たちではこのエリアにはこういった活動が多いとかとても分かりやすく、この成果を少し分かち合う方がいらっしゃるかもしれないと考えて、お願いして貼らせていただきましたが、全部の市民にニーズというのはいないでしょうね。

<事務局：宇田>

元々、この地図も貼ることを前提にワークショップをしていったわけではなく、やっていく内にここまでできたのだから、何か結果が残せたらいいですねという話で3施設にお願いして貼っていただいています。ですから、社会教育委員の皆さんでマップに拘らずに、何かこれについて勉強したいとか、やってみたいということがあるのでしたら、それをまたワークショップとしてやるというのも一つの案です。

<事務局：中村>

更新する状況の中で、地図自体もどうするかということは解決をしなければいけない。けれども、これを更新しますという作業を取ってしまうと、毎年更新をしなければいけなくなる。それをテーマでずっと取ってしまうというのも変なことですしね。

<海士副議長>

自分たちの勉強のためとか自分たちの意識のためにやって、結果を折角だから誰かに見てもらったらということではいろいろ工夫をして、参加者にお願いしたのですが、そうではなく違うことをしていくか。マップについては個人的にはもういいかなと思います。続けるからには毎年更新をしないといけない、それが市民の皆さんにニーズがあるのかどうかを考えれば、ないかもしれない。ただ一覧みたいなのをもう少し、例えばホームページでは分野別だけれども、場所別などでまとめればファイルはいろいろな所に置いてほしいなと思います。

<事務局：中村>

マップも全体図を掲示しようとするれば大変かもしれませんが、切り分けたページでの掲示でしたらそれほど大変ではないと思います。今ここまで出来ているので、更新するにしてもそれほどすごい作業があるかということ、そうでもないのではと思います。

<安東議長>

登録番号とかもありますが。

<事務局：中村>

登録番号はずっと変えていないです。新規が増えて、なくなった所は欠番になっていく

のですけれども、その番号を取って行って、新規の団体を入れていくということであれば、今年は317団体ですので前年度と20団体の差ですから、それほど大きな作業ではないのではないかと。マップをもし下ろしたら、市民の方から分かりにくいマップを、と言われるかもしれないので、ここまでしていただいたので、後は事務局で更新をしていくということもできるのではと思います。

<安東議長>

いかがでしょうか。

<中俣委員>

根本的なことを聞いて良いですか。ここの議題にある活性化をどうしていくのか、というのが、情報を市民に周知していくというのが目的なのか、例えば団体ごとに参加人数を増やしていきたいというのが目的なのか、どちらでしょうか。

<安東議長>

どちらもあると思います。例えば団体ごとに他にどういった団体があって、交流などを図ってもらいたいというのがあります。社会教育関係団体というのは、誰でもウェルカムでやりたいという人は受け入れるという団体ですから、もちろん市民の方に知ってもらうということもありますが、団体同士の情報の交流がこれで少しは促すことができるのかなと思って貼り出しました。効果がどれだけあったかはなかなか見えては来ないところですが。

<海士副議長>

先ほど事務局からも説明がありましたように、年に1回全体の説明を含めた交流会を開催しているのですね。その時にいつもなら基調講演ということで、社会教育関係団体に関係のあるような方に話をしてもらって、後は机を2つ合わせたくらいでグループディスカッションをします、というスタイルをここ何年かやっています。その時のディスカッションを、折角知り合って話をしたいからもう少し長くしてくださいという意見が多く、まだ決まったことではありませんが、基調講演なども止めて、皆で話し合うためのテーマや課題を決めてほとんどの時間を、グループディスカッションをしてもらったらどうかと思います。その時に進行する、企画運営するにあたって、ここの会議で決めたり、実際その交流会に行ってファシリテートしてもらったり、そういうことで自分たちの活動の場になるのかなという話は一つの案としてしました。

<中俣委員>

この年1回の研修会というのは何月にあるのですか。

<事務局：長谷川>

今年度は2月に行く予定です。ただ317団体あるので、一時に入るスペースがございませんので午前と午後に分けて行いたいと考えております。

<安東議長>

先にマップの件を片付けましょうか。形を変えたり、分野ごとに分けたり、そういうことならばできるかと思いますが、継続していけるのかどうかですね。

<海士副議長>

去年は自分たちの勉強のために、自分たちが知るためにという目的が大きかったのですが、例えば社会教育関係団体や市民の方に活用していただきたいとなると、やはりそれは難しいかなと個人的には思うのですね。自分たちでやったことは意味があるけれども、今後更新していくことに意味があるのかということ、一覧はとても良いとは思いますが。

<村上委員>

団体数の表とファイルだけでいいんじゃないの。どういう団体か質問があれば受付などで説明はしてくれるでしょう。

<事務局：長岡>

各施設での説明は難しいかもしれません。詳しいことは生涯学習課に聞いて下さいということになると思います。

<事務局：宇田>

もっと社会教育関係団体とは何か、ということ伝えるほうが良いように思います。マップを貼り出していましたが、おそらく何の団体なのか分からなかったのではないかと思います。一覧を貼るのであれば、もっと社会教育関係団体が分かるような文言のポスター的なものを貼った方が良いかもしれません。去年も野村委員から、もっとキャッチーな感じで、と言っていたので、今年はそういったものを作るのも一つの案かもしれないですね。新しい委員さんもまず、社会教育関係団体って何ですかというところから始まるので、もう少しこういうことをしています、ということが分かるようなものを作った方が見てみようかなと思うかもしれないですね。

<海士副議長>

あまり文字を多くしないで、写真やイラスト、キャッチコピーなどを入れて、今なら317団体もありますよ、と。そんなにたくさん芦屋で動いているのか、どんなことをしているんだ、と興味のある方なら一覧をご覧になるかもしれない。

<事務局：宇田>

施設によっては、マップをずっと貼り続けるのは難しいとおっしゃっていました。

<海士副議長>

社会教育関係団体とは、という啓発のポスターと一覧なら貼ってもらえないですか。

<事務局：長岡>

大きさや期間・場所にもよると思います。

<野村委員>

社会教育関係団体を分かりやすく説明するのは一つだと思います。もう一つ可能なのか、社会教育関係団体は申請によって承認していくのですが、こちらの意思は入っていませんよね。この団体を強く推していきたいという具合に。

<事務局：長岡>

それはできません。

<野村委員>

例えば、この中で社会教育関係団体としてうまく機能していて、スポーツや芸能、芸術の中で芦屋らしいユニークな団体を意図的に訴えかけていく。こんなにユニークな社会教育関係団体がありますよといったアクセント付けをすれば、次はうちも載せてくれないかという話が出るかもしれない。そうすれば、理想的に活動して下さる。

<安東議長>

定期的に出して行って、その中で紹介とすればだいぶんできますね。

<事務局：長岡>

費用や事務的なものでできるかどうかは別として、今おっしゃったことは、社会教育関係団体というものの自体が知られていないので、市としてはどういうものが社会教育関係団体ですよ、或いは社会教育関係団体はこういう活動をしていただきたい、市としてはこういうものを求めています、といったことを知っていただきたいという大きな目的がありますので、それに関する新聞やペーパーを作るとすれば、こういった良い活動をされていますといった内容を順番に紹介することは可能かもしれません。広報紙でそこまでしてもらえるかは分かりませんが、文化財などであればファンがいるので定期的に場所を取って掲載しています。そういう感じで年に何回か、社会教育関係団体のスペースを取って掲載するというのも、できないことではないと思います。

<安東議長>

キャッチコピーみたいなものを一度作ってみましょうか。文言でどういったものにすれば見てもらえるのかという形で。それから一覧に繋げていくわけですね。ここに団体の電話番号やアドレスは掲載できませんか。

<事務局：長岡>

個人情報もありますので、ホームページ上では公開を承認されている団体に関しては公開させていただいています。一覧表に載せて配るということになれば、別に承認が必要かと思います。

<安東議長>

それで一度やってみますか。どういった文言で宣伝していけば分かりやすいのか、というものを作ってみるのは良いかもしれません。社会教育関係団体をよくご存知でない方に、パッと見て面白そうだな、参加できるんだな、と思ってもらえるようなものを作りましょうか。

<海士副議長>

そういうものはあまり作ったことがないですね。

<安東議長>

ではもう一つ、研修会についてですが、社会教育関係団体に集まっただけで午前と午後に分けて、社会教育関係団体の意義などを説明したり、団体の交流の場を設けたり、主としては社会教育関係団体としての自覚を持っていただこうと、何年か前から始めたんですね。折角、いろいろな団体が集まってくれる場ですからそこを利用しない手はないだろうと。今まではレクチャーということで基調講演が多かったのですが、もっと団体間の交流、或いは社会教育関係団体としての自覚を持っていただけないか、そのアイデアをいただこうと思います。

時間としてはどれくらいですか。

<事務局：長岡>

午前と午後で分かれて、2時間ずつです。

<安東議長>

実質は1時間半くらいで何ができるのかということですね。我々としてはこの機会を有効活用して何かやりたいなと考えています。

<海士副議長>

出席は必須ではないんですよ。それでも皆さん出てくださっていますよね。

<事務局：長岡>

はい。午前と午後合わせて、全体の7割くらいが出席されていると思います。

<中俣委員>

場所はどちらですか。

<事務局：長谷川>

今年度は新しくオープンする市役所の東館の会議室を予定しております。

<海士副議長>

キャパはどれくらいですか。

<事務局：長谷川>

100名弱です。

<野村委員>

研修会はいつからされているのですか。

<事務局：長岡>

平成24年くらいからです。

<野村委員>

内容はこういったものですか。

<事務局：長岡>

まず社会教育関係団体とは何かといった説明をさせていただいて、その後は講師をお呼びしてお話を聞いていただきました。最初はあまり交流の時間を設けていなかったのですが、海士委員に講師として来ていただいた後くらいから、折角なので団体間の交流も図れた方が良くということで、ご案内の際に出欠もいただくのですが、その際、所定の用紙にグループの紹介を簡単に書いていただいて、返信をお願いしました。その用紙を会場に貼ったり、隣り合ったテーブルをくっつけて団体間で交流をしていただいたり、最後にアンケートをとっています。そのアンケートの結果、交流会での話合いが良かったのであいう時間をもっと取ってほしいといったご意見が多くありました。

<野村委員>

例えばスポーツならば同じスポーツの方が集まるのですか。

<事務局：長岡>

午前と午後に分ける際に、活動内容で分かれています。時間に都合がつかない場合にご連絡があれば午前と午後を入れ替えたりもしますが、ある程度は固まっています。

<野村委員>

交流会はその分野での交流ですか。

<海士副議長>

軸として分野は集めていますが、時間的に難しいのでたまたま座った方たちでやっていただいていますね。人数が少なければ調整もできますが。

<野村委員>

折角集まって交流しているのであれば、分けられるのが一番良いですね。

<安東議長>

活動ごとに分けて座ってもらうのも一つですね。

<辻井委員>

交流に特化して、時間もそこに割いて、最も交流しやすい形です。

<海士副議長>

10人くらいが座れる島を作って、最初にどこの島に行くのか予め決めておいて、例えば環境のテーブルは1と2なのでどちらかに座って下さい、と案内するくらいで構わないですが。

<事務局：宇田>

一つ私たち事務局が悩んでいるのが、活動種類ごとに集まった方が良いのか、活動場所ごとに集まった方が良いのか。交流するにしても、どちらの方が皆さん話しやすいのかと、思っていて、今回1と2の資料を作らせていただいています。

<事務局：長岡>

直接は関係ございませんが、市民センターで毎年開催される芦屋市民ステージという催しがあります。吟詠剣詩舞連盟さんという団体がそれに出演されていらっしゃるのですが、

交流会で同じテーブルでお話をされた中に子どものダンスのグループがいらっしゃって、ゲスト出演をしていただいたそうです。活動の種類は違いますがお話しをされていてそれならば、ということで今年初めての試みで出演していただきました、というお話しを去年されていました。そういう形でもっといろいろなことが広がる可能性もあるのかなと思いました。

<海士副議長>

そうしたら分野が違う方が良いのか。

<辻井委員>

例えばスポーツと音楽など、まったく趣が違い過ぎても難しいですね。

<事務局：宇田>

今、案内文を出す時はある程度こちらで半々くらいになるように、活動種類ごとに午前と午後、例えば午前はPTAと青少年とスポーツといった形で案内文を出しているの、交流会の時に活動場所ごとに分かれていただくというようなことは可能です。

<中俣委員>

今までお話ししてきた中で、社会教育が地域とのつながりを知ること、仲間になることを思うと、地域の方が良いのかなと思います。交互に今年は地域、今年は活動内容という形でもいいと思いますが、私が参加者の一人だとすると、同じテーブルの人がまったく知らない地域の人ばかりよりは、例えばまちで顔を合わせた時にこの前お会いした方だ、とお顔見知りになれて、そこからつながれるようになったら良いと思います。

<事務局：宇田>

活動場所しかお尋ねできていないので、地域の人を絞るというのはこちらではできません。集まっていた人たちの中で「住んでいる校区に分かれてみましょう。」といったことは、その場ではできるかもしれません。端から、案内を送る時に地域ごとに送るということは、申しわけないですがこちらでは分かりかねます。

<事務局：中村>

団体のメンバーも市内全域からいらっしゃっているの、たまたま代表の方だけが同じ地域ということもありますので。

<海士副議長>

地域で考えるのは難しいですね。

<安東議長>

活動場所ごとでやってみますか。問題はテーマですね。フリーなのか、或いはテーマを設けて話していただくのか。

<海士副議長>

社会教育関係団体としての役割、でしょうね。または、芦屋の次の時代を担う人たちに何ができるかとか。でも、まずは普段されていることとお話しされるでしょうね。自分の活動の中での悩みなどをお話しされると思います。

<安東議長>

1時間半もあるとすれば、一つだけのテーマで話をするのは難しいと思いますので、次はこれ、といったファシリテーターをやっていくのかどうか。

<海士副議長>

時間を短くして先日行った会議がそうだったのですが、絶対に一つのテーマしか話せないような時間内に、無理にテーマを二つ入れてどちらも中途半端になったんですね。その会議は30分で二つのテーマだったんです。なので1時間あれば二つできるかもしれないですね。それに、一つのテーマではなかなか話が弾まず、次のテーマで弾むということもありますので、二つくらいはあれば良いのではないのでしょうか。

<事務局：長岡>

交流会というのがとても良かったので時間をもっと取ってほしいとおっしゃっている、その交流会の話の内容がこちらでは分かりかねますが、テーマをこちらが設けてそれについて話してくださいというと、ご不満に思う方がいらっしゃるかもしれません。フリーでお話を始めてくださいと言うと、先ほどもあった通りご自分の活動やその悩みについてお話をされると思います。おそらくそれが良かったというご意見だと思われそうですが、時間を1時間とすれば、最初にそういう時間を先にして話しやすい雰囲気を作って、ではこの後はこのテーマで意見交換をという形で進めた方が良いのかなと思います。

<安東議長>

以前の交流会は何分くらいでしたでしょうか。

<事務局：宇田>

30分くらいだったと思います。去年は障がい者団体の方に来ていただいて、いろいろな方が活動をするために門戸を開いていただきたいという考えもあって、障がい者団体の代表の方から、障がい者の方の現状や興味のあることについて、話をしていただいた後

に交流会を行いました。話がずれ込んだりもしたので、交流会は実際には30分程だったと思います。いきなり始まると打ち解けるのに時間がかかったり、ちょうど打ち解けたと思ったら時間がもうなかったりということでもの足りなく思われたのだと思います。

<安東議長>

15分でも自由に話をさせていただいて、その後テーマについて話をさせていただくという形ですかね。

<海士副議長>

自己紹介でかなり長く時間が取られるかもしれませんね。

何人の島にするかも問題ですが、例えば7、8人にするなら、活動紹介をこの時間内にしてくださいと決めて、テーマに移っていく。

<中俣委員>

そのテーブルごとに社会教育委員が1人ずつ入っているのですか。

<事務局：長岡>

今までは、そういうことはございません。

<事務局：宇田>

去年は安東議長と海士副議長に来ていただいて、どこかに入らせていただくという形で行っていました。

<海士副議長>

団体のいきいきと活動している様子や、抱えている悩みなど生の声が聞けたことが、私はとてもうれしいです。でも、社会教育関係団体とはこういうことですよ、という話は少し欲しいと思います。

<事務局：長岡>

交流会というだけでは、行かなければいけないという意識が薄れて参加率が落ちる恐れがありますので、研修会としてお話はさせていただきますが、交流の方に時間を多く取るという形が良いのではないかと思います。

<村上委員>

我々も午前午後と両方に参加するのですか。

<事務局：長岡>

強制ではないのでご案内はさせていただきますが、ご都合が合えば参加していただければと思います。

<村上委員>

初めてなので、どちらかでも参加させていただきたいと考えていますが、テーマを決めない方が、意見が多いと思います。それと、団体の割り振りもごちゃまぜにした方が逆に面白いのではないかなと思います。スポーツをしている人が芸術に興味を持ったり、反対の意見が出たりするのではないのでしょうか。

<安東議長>

いろいろと試していけば良いかと思います。

<海士副議長>

やっている活動を皆知らないというと、それなら教えます、と喜んでお話をされる方がいらっしやいますよ。大好きでやっている活動なので皆に知ってもらおうと。皆さん興味を持って聞いていらっしやって、盛り上がっている所もあって面白いです。

<事務局：宇田>

全体に告知をしたいという団体さんもいらっしやったのですが、交流会はグループごとになると思いますが、全体で告知する時間も取った方が良いでしょうか。

<海士副議長>

チラシなどの資料を置いていただいたらどうでしょう。グループになって、グループ内に配っている方もいらっしやいましたよ。

<安東議長>

前とは違って、まったく何のテーマもなく1時間半程話しをするのは難しいと思います。

<事務局：長岡>

二つくらいテーマを用意して、最初に30分なら30分をフリーでしていただいて、後をテーマでという形でもよろしいでしょうか。

<中俣委員>

社会教育関係団体としてこういうことをしていますといった内容を、皆さん話す時間はありますか。

<安東議長>

自己紹介としてグループの中では話す機会はあるかと思います。

<海士副議長>

社会教育関係団体としての自覚があるかどうかは別ですね。自分たちは好きでこれやって登録をしているけれど、社会教育関係団体としては何をされていますかという、そんな自覚はないとおっしゃる方もいるかもしれません。

<中俣委員>

団体に登録している以上サークルではないので、社会教育関係団体として自分たちの楽しみのためだけでなく、どういうふうに地域に還元しているか、お互いに情報共有して活性化できて皆さんの向上心が高まればいいなと思います。

<安東議長>

それが狙いですね。

<海士副議長>

登録申請の時に、どういうことで社会に還元できますか、ということは聞く要件にはなっているんですけどね。

<安東議長>

3割減免がありますので、そちらの方を目的にされている団体が多いだらうと思われませんが、それだけではなく社会に還元してくださいということを、皆さんにもう一度認識していただくことが大きな課題だと思います。では、これはまた継続として、皆さんにテーマ考えて来ていただくということでよろしいでしょうか。

何かご質問はございますか。

<中俣委員>

テーマを決めるのは次の1月28日の第4回の会議でしょうか。

<事務局：長谷川>

12月17日にワークショップでお集まりの際にテーマについてのご意見をいただければ良いかと思います。

<海士副議長>

ワークショップのご都合が悪ければ、それまでにご連絡していただくようにしましょう。

<安東議長>

12月の17日を目途にお願いします。

では、以上ですべての議事は終了いたしました。事務局からその他何かございますか。

<事務局：長谷川>

はい。今後の日程について確認いたします。

11月16日月曜日に阪神南地区社会教育委員協議会の研修会がございます。その後懇親会がございますので、ご出席を希望される方はお申し出いただきたいと思います。また2日後、11月18日には兵庫県の社会教育研究大会がございます。詳細がまだ届いていませんので、分かり次第皆さまにご連絡させていただきたいと思います。あと先ほどお話が出ました、第4回社会教育委員の会議が来年1月の28日に15時からとなっております。

事務局からは以上です。

<安東議長>

ありがとうございました。他に何かございませんか。

ないようですので、本日の会議は終了といたします。長時間お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。